

P - 36

地域在住高齢者における血清性ステロイド値と味覚感度との関連

○安細敏弘、豊島邦昭、瀬田祐司、豊野 孝、栗野秀慈、
邵 仁浩、吉田明弘、濱崎朋子、園木一男、大住伴子、
高田 豊、西原達次、竹原直道 学術研究重点配分助成チーム

最近、我々はラットの味細胞においてP450 アロマターゼなどの性ステロイド合成酵素が発現していることを報告し、受容した味覚情報が性ステロイドを介して伝達される可能性を示唆した。そこで今回、我々は味覚感度と血清性ステロイド値との関連性を検討するために地域在住高齢者 393 名を対象に全口腔法による味覚検査を実施した。性ステロイドとして、estradiol E2、free testosterone および dehydroepiandrosterone-sulfate (DHEAS)の測定を行った。その結果、4つの基本味のうち、男性において酸味と free testosterone 値との間に有意な関連がみられ、感度が低いほど free testosterone 値が低値を示した。また、女性では酸味において DHEAS 値が低いほど感度が低い傾向がみられた。本結果は味覚情報の伝達に性ステロイドが一部関与している可能性を示唆している。

P - 37

九州歯科大学学生の教育実態調査、教育成果の検証と教育改善のための提言の作成

○豊野 孝^{1,7}、高田 豊^{2,7}、荒井秋晴^{3,7}、稲永清敏^{4,7}、
後藤哲哉^{5,7}、西原達次^{6,7} 九歯大・¹口腔組織、²内科、
³総合教育、⁴生理学、⁵頭頸解析、⁶感染生物、⁷大学自己評価部会

九州歯科大学学生の教育成果の検証を行うために、本学歯学部学生(2～6年生)全員 489 名を対象として、学年毎の履修した全講義および実習に対する達成度および満足度に関するアンケート調査を行った。

1～5 年次講義および実習の達成度および満足度に関して、学年毎に比較を行った。その結果、5 年次講義の達成度および満足度が他の学年に比べ低いことが明らかになった。1～5 年次実習の満足度に関しては、1 年次実習が他の学年にくらべ満足群が低く不満足群が高い傾向が認められた。各学年の講義および実習での達成度および満足度が高い科目を調べたところ、2 年次では基礎科目が、3 年次では臨床科目が上位を占めていた。これらの科目において達成度および満足度間には有意の正の関係が認められた。これらの結果より、講義や実習において学年間および科目間において達成度および満足度の差が認められた。今後は本結果をもとにして講義および実習内容および方法の改善に取り組む必要があると考えられた。